



つうしん ふくろう通心

子どもも元気にウォーキング！

弘前子どもウォーキングクラブは平成14年6月より毎月第3土曜日朝9時に弘前市役所前へ集合し、市内周辺を自然に親しみながら往復6KMをウォーキングしております。

毎年小中学生25人ぐらいを募集しており、普段歩く事のない小道で川風に吹かれながら友達を作るのも一つの楽しみです。

活動内容として①健康、体力づくりを目指します。②四季の自然に親しみながら弘前の地理、歴史、文化について学習を深めます。

車に乗る事の多い日々にはせめて月1回であってもウォーキング出来る幸せと健康の大切さを学んでいただけたらと思っております。

ウォーキングのルールを学び、心地よい汗を流すことは毎回とても楽しく、初めて参加の子ども達も本当に元気に歩き、その姿にびっくりしております。時には家族も参加してくれて、私達もボランティアの大切さを知らされ、あっという間の5年が過ぎようとしています。

大人も子供も周囲への思いやりや自然の大切さ、健

康の尊さを少しずつでも身につけてくれたなら、弘前子どもウォーキングクラブに関わっている一人として有り難い事だと思います。

今年もどんな出会いがあるか今から楽しみにしながら、ウォーキングのコースをスタッフの皆様と考える事にしております。

お世話になるだけではなく、小さなことでも自分に出来る事をお返ししたいものと心がけ、多くの方々にも是非参加して下さるようお願いしております。

弘前子どもウォーキングクラブ事務局 宮本彰夫



平成24年度「弘前子どもウォーキングクラブ」の募集は「広報ひろさき」3月1日号に掲載されています。

ボランティアの定着と子どもたち

世界的に活動するボランティア団体「オール・ハンズ」は自然災害の被災地で人道支援をしています。その立ち

上げに関わった北浜哲（さとし）さんは10代のころは強制されるボランティア活動にいやいや参加していました。

人の役に立ちたいという気持ちを持つためには「きっかけ」が必要だと話しています。最初は自分から進んでする行動でなくても、人に喜んでもらえたという経験はいつか役立つ時があると思います。これからの子供たちに期待したいと思います。

ボランティアスタッフ



街角ちよとボランティア

先日朝、市内中心部をバスで移動中、中学生か高校生でしょうか。髪型を見たところ、野球部員とおぼしき学生達が、商店街の雪かきのお手伝いをしているのを見かけました。重労働な除雪作業に若い力が一役買っていたようです。

寒い中、皆さんご苦労様でした。



「津軽かたりべの会」代表 菊地 菊代さんに聞きました

昔話には、単にお話が面白いだけでなく、色々なことが含まれています。

苦勞の多い農家の暮らしぶりや喜び、悲しみ、津軽に起こった出来事が味わいのある言い回しで語られています。

菊地さんは小さい時からお母さんの昔話をたくさん聞いて育ちました。それを元に今では約 160 の話をまとめて原稿にしているそうです。昔話は「歴史をよく知って語らないと表面的な表現になり、また、いつでも質問に答えられるように時代考証の勉強も欠かせない」と言います。ぬくもりのある言葉を伝える昔話の良さを、「ぜひ今の子ども達に残していきたい」と話されておりました。

「津軽かたりべの会」の会員たちは、りんご公園や公民館、JRリゾートしらかみ車内、学校など様々な場所で活動されています。



「みちのくふるさと会」の活動

「みちのくふるさと会」が関わっている「子どもふるさとクラブ」は、月 1 回中央公民館で、子ども達に主に昔の遊びを伝える活動をしています。伝承遊びの他に、折り紙、昔っこの読み聞かせなど様々な遊びをしています。

昔の子ども達は、遊びを自然の中で工夫しながら器用にこなしていたと思います。でも、今の子ども達の発想もすばらしく、何もない所から新しい楽しいことを考え出すので、基本だけはおさえあとは自由に行なわせるようにしています。

活動の一つに調理体験もあり、おにぎりや簡単な漬物を一緒に作ったりしています。

子ども達の中には、作ったものを家族のおみやげに持って帰る子もいて、ホッと心が温まります。

我々メンバーも、子ども達からパワーをもらい、楽しく活動させてもらっています。

「みちのくふるさと会」

代表 伊藤邦子さん



「弘前大学児童文化研究部」の活動

若い人が活動しているのを見るのはうれしいものです。1月28日りんご公園で「ウィンターフェスティバル 2012」が開かれました。とても雪の多い日でしたが、弘大の学生さんが子供たちに読み聞かせをしていました。聞いていた子どもたちは本当にうれしそうでした。普段、学生達は毎月1回、近くの児童センターで読み聞かせをしながら子どもたちと一緒に遊んだり、手作り人形劇にも取り組んでおられるとのこと。

ボランティア文化も児童文化もこんな小さな活動から広がっていくのだと実感した取材でした。



豆知識 気をつけて耳そうじ

ある日突然Kさんの片方の耳が聞こえなくなりました。びっくりしたKさんはすぐに病院に行ってみると、何と！原因は耳あかで、耳そうじのし過ぎでした。誰でも耳あかは気になります。いじりだすとクセになって、その結果、かえって耳あかを奥に押し込んでしまったり、傷つけたりすることがあるそうです。放っておいても耳あかで詰まる心配はありません。耳あかのそうじは数ヶ月に1度で良いそうです。



編集後記

今回は子ども達に目を向けたボランティア団体の紹介としました。この冬は本当に寒かったけれど、編集会議は熱く盛り上がります。みんなをお母さんのように包み込んでくれるIさん、交際範囲が広く人材を見つけてくれるKさん、居てくれるだけあたりを明るく照らすRさん、良いアイデアをいつも出してくれるSさんなど、一人の力が小さくても集まると大きな力になります。

春が待ち遠しいスタッフ一同です。

<製作>市民ボランティアスタッフ
<製作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13
弘前市民参画センター2階
月~土曜 9時~17時
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822
HP: <http://www.hi-it/~vsc>

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。